

活用方針



VLP取組概要

■ VLP活用のねらい

- 不 不登校及び不登校傾向がある児童・生徒に対して、仮想空間を活用した居場所と学習の機会を確保する。
- 日 希望する生徒に対し、日本語指導の機会を確保する。

■ 対象生徒・児童

- 不 不登校及び不登校傾向がある児童・生徒
(日本語指導対象者含む)
- 日 日本語補習指導を受ける生徒

■ 運営時間

- 不 月・水曜日 10:00～12:00
- 日 日本語指導日及び水曜日放課後

■ 活用方法

- 不 VLP上でのかかわりやつながり、Microsoft Teamsを活用してのオンラインでのつながり
- 日 日本語指導の際に、VLP上で日本語学習の時間として活用

活動・取組み内容



活動・取り組み内容

【前期】

(不登校)

- 適応指導教室に通う児童・生徒に対して案内。
- 初めてのログイン者には操作の方法やできることを紹介。
- デキタス、みんプロの活用
- 支援員等とのテキストチャット
- 適応指導教室が学年別登室日を設けたことで、該当する学年別登室日以外の日にはVLPに来室する事例が見られた。
- (日本語)
- 不登校となった生徒に対し、週に一回の日本語指導を行った。音声によるチャットを使用した。

【後期】

(不登校)

前期と同様

(日本語)

- 不登校生徒が帰国したため、利用者がいなくなった。
- 水曜日放課後は空間内で指導時間を設けているが、参加者はいない状況。

成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

成果/好影響

(不登校)

- ✓ 適応指導教室に登録しているにも関わらず、本人の状況等によって教室に通えなくなる児童・生徒がいる。そうした児童・生徒にとって、登室が苦しくなった場合に、VLPになら参加がしやすい
- ✓ VLPに参加してチャットなどでのやりとりを通して、適応指導教室への通室意欲を高めることにつながっている。
- ✓ 丁寧に話を聞くなかで、他者にたいする興味や、学校生活にたいする興味を引き出したり、不安に感じていることを聞き取ったりできている。

(日本語)

- ✓ 不登校傾向になっても日本語指導を実施することができた。

次年度以降の方針

(不登校)

- ✓ 適応指導教室に登録していない不登校及び不登校傾向にある児童・生徒に対して学校からVLPの案内ができるようにする。
- ✓ VLP空間内に心理職を配置するとともに、適応指導教室職員が空間内に配置する時間を増やす。
- ✓ 曜日ごとにVLP空間内でイベントを行い、児童・生徒が見通しをもって参加できるようにする。
- ✓ 教育版桃鉄を導入する。

(日本語)

- ✓ 引き続き、日本語指導を実施する児童・生徒が不登校になった場合の支援ツールとして活用する。

利用者の声



児童・生徒

- 「他の人はVLPでどんなことをしているのか～VLPでの過ごし方や勉強の仕方」を知りたい。
- 支援員や指導員の先生と、進学の話、将来の話、宿泊行事のことや不安、自分の性格などを話することができた。
- VLPに来て、話だけでなく、勉強をしたいが、デキタスやeボードで自分一人で勉強するのは問題集をやるのと同じように感じた。
- 適応指導教室に実際に通える時は、VLPではなく教室に通う方がいいと思う。



教職員や保護者等

- 適応指導教室に行けなくなった場合の補完として機能した。他方、リピーターの活動内容は徐々に深まっており、これらに対する、教育相談や教科学習も充実できるようにしたい。
- VLPを活用することがふさわしい児童・生徒が存在する一方、学校によるICT等を活用した支援がふさわしい児童・生徒もいる。
- 離席していてもいつでも対応できるようなアラート機能の実装があると利便性が高まる。